不妊治療に向き合う部下を支える

ワークヘルスパレット
〈不妊治療編〉



管理職が明日から使える
不妊治療の「聞き方」と「支え方」

形式 対面・オンライン／標準90分

アーカイブ視聴可能

もし部下から「不妊治療しています」と相談されたら、どう対応しますか？



- 本人に、何と声をかければいい？
- どこまで聞いていい？
- 急な休みが続いたら、業務をどう調整する？
- 周囲のメンバーには、どう説明する？
- 評価やキャリアは、どう考えればいい？



本研修は、こうした迷いに管理職が対応できるようになることを目指します

約7人に1人

働く男女の約7人に1人が不妊治療を経験または予定（14.5%・男女計・n=2,000）

約4人に1人

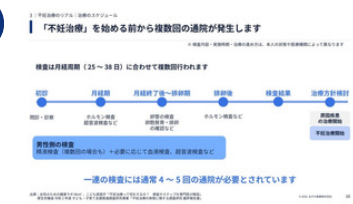
治療経験者の約4人に1人が両立できず、仕事や治療をあきらめている（26%・男女計・n=257）

1,000人規模企業 **約145名が当事者。うち約34名が両立をあきらめ、約14名が離職***

医療とキャリア、2つの専門性を組み合わせたプログラム

❶ 不妊治療の理解
医療領域　30分

1



- 専門医監修で信頼性の高い情報
- 治療のスケジュールと見えにくい負担を解説
- 両立が難しい理由を紐解く

❷ ワークマネジメント
キャリア領域　30分

2



- 国家資格キャリアコンサルタントが解説
- 働き方・業務分担・キャリア支援
- 「どこまで・何を聞くか」の迷いを整理

❸ ケースワーク
実践　15分

3



- 知識を「自分ならどう対応するか」に
- 実際の相談場面を疑似体験
- 現場で使える対応力へ

出典：厚生労働省「令和5年度 不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査」　※同調査の割合（当事者14.5%、うち治療中・治療経験者12.9%の26.1%が両立をあきらめ、10.9%が離職）を1,000人規模企業に当てはめた試算イメージ

© 2026 あすか製薬株式会社・ルポンコンサルティング株式会社

研修後も使える相談対応ガイドと、社内の実態調査

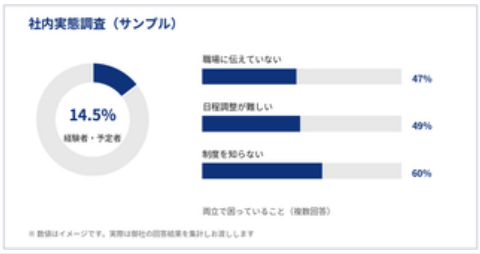
相談対応ガイド



場面ごとの問いかけと返し方を整理
研修後、実際に相談を受けたときに手元で確認できます

実態調査アンケート（ご希望に応じて）

社内では聞きづらいことを第三者として無記名で調査し、集計結果を実施報告としてお渡しします



期待できる効果：管理職の理解と対話が、不妊治療当事者と企業双方のプラスにつながります



企業

働き続けられる職場へ

- 制度を「実際に使える支援」につなげる
- 管理職による対応のばらつきを抑える
- 人材の定着・継続的な活躍を支える



管理職

相談対応への迷いを減らす

- 不妊治療の特性を踏まえて対応できる
- 本人に何を確認すべきか整理できる
- 業務調整や対話の選択肢が増える



従業員

相談しやすい職場へ

- 必要な配慮や働き方を相談しやすくなる
- 治療を理由にキャリアをあきらめない対話につながる
- 「周囲に迷惑をかけるのでは」という気兼ねの軽減

認定・調査の取組としてご活用いただけます ※2026年10月時点

くるみんプラス認定

認定に必要な4つの取組のひとつ「研修等による理解促進・ハラスメント防止」に該当します

健康経営度調査

「女性の健康課題に関する研修・セミナーの実施」
「管理職への知識提供」の設問に記載できます

講師・監修体制

医療領域 **医療分野の専門家**
あすか製薬株式会社／専門医監修

キャリア領域 **キャリア分野の専門家**
ルポンコンサルティング株式会社／
国家資格キャリアコンサルタント監修

実施要項

形式	対面またはオンライン（全国対応）
時間	標準90分（60分版あり）
提供物	講義スライド・ワークシート・相談対応ガイド
お申し込み	下記のお問い合わせ先へご連絡ください



あすか製薬　LEPONT CONSULTING

お問い合わせ

あすか製薬株式会社　担当：三谷 ちひろ

TEL：03-5484-8377　　Mail：mitani-c@aska-pharma.co.jp

© 2026 あすか製薬株式会社・ルポンコンサルティング株式会社